



発行記念北海道フォーラム in 函館 「北海道観光50年の軌跡」

(公社) 日本観光振興協会
(一財) 北海道開発協会

(一財) 北海道開発協会では、観光産業等の歴史や先達の方々の取り組み等を取りまとめた「北海道観光50年の軌跡」を発行しました。「北海道観光50年の軌跡」の執筆者とともに、ポストコロナにおける地域の特性を活かした新たな観光振興について考えるフォーラムを、根室、札幌、函館で開催しました。第三回目は、9月に開催した函館の内容をお伝えします。

基調講演 「函館観光の歴史」

観光事業は、観光に直接携わる事業者だけで動くものではありません。交通事業者や農林漁業者、行政など、多様な業種の方々が連携することで、受け入れ体制も充実し、魅力ある観光地として機能するものと考えています。



前函館山ロープウェイ
(株)代表取締役専務
櫻井 健治 氏

函館観光の大きな特徴は、平面的な観光ではなく、函館山、五稜郭タワーのように、高い所から俯瞰することができる立体的な観光の地であると思います。

特に函館山から見る夜景は、観光都市函館のシンボルとなってきました。しかし、観光都市として生きていくための課題の一つが、人口減少の問題となっています。函館の夜景は、函館市民一人一人の生活の営みの中から生まれ出る灯りで構成されています。今、函館市の人口は約24.5万人ですが、函館山の麓、西部地区をはじめ、全体的に人口は減少し、増加する要素はありません。今後、街の灯りがどのように変化し、どのように対応していくのか、難しい課題を抱えていると言ってしまうでしょう。

次に、北海道新幹線の札幌延伸に伴う、観光客の動向です。新函館北斗駅の売店で一番充実しているのはお酒売り場で、おそらく市内の酒屋さんに負けないと思います。しかし、全体を見ると、お土産売り場が小さく、お弁当屋さんの品数も少なく、カフェや本屋さん等の対応も必ずしも十分とはいええず、これが新幹線駅舎なのかなと思うほどです。このままでは、いずれ

新函館北斗駅は一通過駅になるのではと考えられます。この問題は、一事業者や一自治体だけで解決できる問題ではありません。札幌駅周辺や倶知安駅周辺では、新幹線開業に向けて、多くの人を集めるための戦略を練って、計画を立てています。新函館北斗駅とその周辺は、新幹線の乗降客の場だけではなく、多くの人々が集まり、賑わいのある場所にしなければいけません。地域をあげて連携を図りながら、もう一度真剣に考える必要があると思います。

明るい材料もあります。2021年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ユネスコの世界遺産に登録されました。旧南茅部町で発掘された、国宝「中空土偶」をはじめ、「史跡垣の島遺跡」や「史跡大船遺跡」など、世界的に注目される観光素材があります。関係する地域が知恵を出し合い、これらの資源を有効に活用した広域連携を確立できれば、交流人口も増加していくことと思います。

函館市は、観光の基本理念を「人・まち・文化の宝石箱・新国際観光都市函館へ」と定め、その実現に向けて取り組んでいます。観光振興は、多くの皆様の熱き心の通じ合いによって築かれていくものと考えております。

事例紹介①「公共温泉に取り組んできたアンビックス」

我々宿泊業を営む者は、コロナで3年間苦しめられたので、もう観光は、だめだろうと半分あきらめていました。ところが円安が進み、観光がインフレを救うのではないかと、北海道、日本を救うのではないかとされています。国は、2019年に約3,000万人だった訪日外国人旅行者を2030年には6,000万人という目標を掲げています。最初は、少し疑わしいと思っていましたが、背景を見てもみますと、2030年までに、世界での旅行者が4億人に増えると予想されています。そのほとんどが中間層、富裕層の人口が増大する



(株)アンビックス副会長
前川 勝美 氏

アジア人です。

日本の円安は、しばらく続くと思います。海外から日本に旅行に来ると、物価が安く感じると思います。また、日本の経済成長は横ばい状態ですが、東アジアの経済成長の伸びは、非常に高いです。成長経済圏がすぐ近くにあり、タイから日本までは、4,314km、約4時間強で来ることができます。アジアは、非常に可能性のあるマーケットだと思います。

2030年にインバウンドが6,000万人になれば、インバウンドだけの消費額は22兆円と推定されています。ちなみに国内旅行消費額は15兆円と推定されます。2016年にインバウンド観光消費額は自動車輸出のほぼ3割でしたので、2030年には自動車産業を越えるのではないかと考えています。

これからのアンビックス社は、コロナに負けず、「北海道SDGs未来都市計画」への貢献を目指しています。これからは、観光だけではなく、すそ野を広げて、北海道における過疎地域の問題、国の安全保障にも大きく関係する食料自給率の問題にも関わっていく必要があります。再生エネルギーの活用では、風力発電に最適なエリアである北海道は優位性があると思います。道内に賦存する再生可能エネルギーを水素に変換する時代が来ると考えます。北海道のあるべき姿に貢献できるよう、事業を進めていきたいと考えています。

また、国では、「デジタル田園都市国家構想」という、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決と魅力の向上を図り、地方活性化を加速させようとしています。これは、観光業界全体で取り組んでいかなくてはなりません。これから、人手不足になることは、間違いありません。インバウンドが戻っても、従業員が戻ってくる保証はありません。これを解決するには、デジタル化しかありません。

また、調理は集中キッチンで行い、冷凍化して、デリバリーするようにしなければ、対応ができなくなります。フロントもコンシェルジュ機能だけにする必要があります。インバウンドが本格的に戻ってきたら、ほとんどの施設が対応できないと思います。

ポストコロナで、考え方も変化がでてきました。一つは、災害に備えて、避難のために、地方にマンションやコンドミニアムを持つ「バックアップハウス」という考え方です。もう一つが、都会と自然に囲まれた、二地域に生活拠点をもち、オンオフを切り替える生活をする「デュアルライフ」という考え方です。北海道新幹線が延伸して、函館は札幌から1時間の通勤圏になります。この2つのトレンドを、いかに活用していくかが、函館観光の「カギ」になると思います。

事例紹介②「MICEの重要性」

2016年には、「北海道MICE誘致推進協議会」が活動を開始し、MICE全般の推進を図ってきました。現在、落ち込んでいるインバウンド需要の回復にもつなげていこうとしています。MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。すそ野の広いMICEは、地域特性を活かした、交流人口の拡大、経済の活性化や新たな産業の創出などへの貢献も期待されています。

北海道の強みの一つは、関係企業のネットワークが全国のどの地域よりも進んでいることです。札幌では、2001年から、地元企業を中心にコンベンション関連産業ネットワークを立ち上げて活動してきました。2022年4月に一般社団法人化し「さっぽろ北海道MICE振興協会」になりました。帯広からは、「とちかちMICE誘致推進協議会」が参加するなど、日本の他の地域にはない「企業連携」でコンベンション誘致、基盤整備、環境配慮などを進めています。特に2023年6月に開催予定のアドベンチャー・トラベル・ワールド・サミットについては、企業連携の強みを生かして、積極的に



(一社) さっぽろ北海道MICE振興協会専務理事
根子 俊彦 氏

関与し、取り組んでいきたいと考えています。

函館にとってのMICEの強みは、「函館アリーナ」の存在です。JNTO基準^{*1}の国際会議は、まだ件数は少ないですが、2019年には道内で札幌、倶知安町に次いで函館が3番目となっています。函館は観光地として人気があり、ブランド力もありますので、会議主催者が“開きたい場所”の候補となるようにプロモーションをしていくことが重要です。実際にMICEをどう推進していくかということですが、まずは歴史的財産・自然環境をいかに活用するか、そして地域文化の誇りを共有し、いかに理解を促進していくかです。地域資源の価値を高めて、ビジネス機会を拡大することです。そこで一番大切なのは、演出力、企画力です。この部分をぜひ若い人に関わってもらうことで、新たな提案を求めていきたいと思います。“地域ならではの”体験、若い人の柔軟な発想がないとMICEは盛り上がりません。

函館は、函館山、五稜郭、ペリーの来航した函館港などがユニークベニュー^{*2}として、大いに活用が期待されます。また、歴史的建造物もたくさんありますので、それらをいかに活用し、魅力を発信していくかが求められてきます。アドベンチャー・トラベルでは、アメリカの本部から北海道は縄文とアイヌ文化が非常に高い関心を持たれています。2023年、札幌での全体会議では、縄文やアイヌ文化を強く提案していくことになると思いますが、特に縄文文化については、函館周辺に世界遺産があり、見学できる施設もたくさんあるので、これらの情報発信が今後期待されるところで

す。広域連携も重要です。この道南エリアは、北斗市や七飯町、森町、江差町などにそれぞれ魅力がありますので、それらを組み合わせることで、さらに価値を高めることができます。その際、行政区域を越えてどこまでサポートできるかということが大事です。少し足を延ばして、登別や白老との組み合わせなども効果的です。MICEというのは、魅力のある分野だということを、是非感じてもらいたいと思います。

* 1 JNTO基準

国際機関、国際団体(各国支部を含む)または、国内機関・国内団体(民間企業以外)が主催した会議で、参加者数50人以上、参加国数3カ国以上、開催期間1日以上。

* 2 ユニークベニュー(Unique Venue: 特別な場所)

「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間(庭園・公園、商店街、公道等)」などで、会議・レセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる会場。

パネルディスカッション

「ポストコロナにおける新たな函館観光を目指して」

安田 函館は、北海道を代表する観光地ですので、コロナ禍によって受けたダメージは、非常に大きいものだと思います。そうした中で、これからどんな取り組みが必要かお話を伺います。



北海道エアポート(株)
営業開発本部観光開発部
担当部長
安田 稔幸 氏

前川 魅力のある観光地にするために、しっかり時代のトレンド(つか)を掴んで、遅れているDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組んでいかなければいけません。このままの体制で、インバウンドが戻ってくると、人材不足で大変な状況が想定できます。観光業は、不特定多数の人々との接触が不可避な業態であるため、感染症対策をしっかりと、観光業を魅力ある仕事にして、一度離れたスタッフに戻ってきてもらうようにしなければいけません。観光が地域を救う産業にしていくべきだと、このコロナ禍で改めて感じました。

根子 まずは人材をどうやって確保していくかということになります。宿泊業だけ考えれば、ロボット化を進めるなど、DX化でカバーできる方法もありますが、特にMICEでは、マンツーマンで対応することが求められますので、そこをカバーしなければなりません。マーケットの回復に併せて、人材を集めてくるのが課題です。観光が魅力のある産業であることをアピールし、働くみなさんに知ってもらう必要があります。報酬を上げることも必要ですが、観光に興味をもってもらう必要があります。

北海道にとって観光と農業は2大産業です。そこですできるだけ労働力を集めていく、仕組み作りが必要だと思います。

櫻井 コロナが始まったころは、函館山ロープウェイの最大乗車人員125名を、半分程度の乗車にし、運行していましたので、ピーク時には、下山のペースが遅くなり山頂が一杯になってしまいました。そのためコ

ロナの問題は真正面から向かい合わねばならない課題でした。その時、心がけていたのは、コロナに関係する各機関からの情報を入手して、お客様に安心感をもって利用してもらうことでした。これからもインバウンドの方をはじめ、お客様を増やしていかなければなりません。今以上に関係機関との情報ネットワークを構築し、さらには、プロモーション活動も併せて行っていく必要があります。

中野 五稜郭タワーは、函館市内の観光施設の中では、一番早くに臨時休業をしました。

みなさんと同様に、コロナの影響で、若手職員が多く辞めてしまい人手不足です。現在は、募集をしても来てもらえない状況です。どうしても観光業界は土日祝日、お盆休みとか、ゴールデンウィークがピークになるので、カレンダーどおりには休めないということがあります。報酬面では、悪くはないと思っていますが、なかなか人が集まらないので困っている状況ですので、今までしていなかった新卒採用も検討しています。

安田 北海道新幹線の札幌延伸について、函館はどう向き合っていたら良いでしょうか。

根子 地理的に考えると、北海道にとってのゲートウェイは函館ですから、後方が広がることは、決してマイナスにはならないですし、総合的な活力の向上につながると思います。新幹線の利用客が増えることで、函館に寄って、散策されたり、函館エリアに寄ってから札幌に行くお客様が当たり前になってくると思います。そのことが函館地域の発展のきっかけになると強く思っています。

安田 新幹線の札幌延伸で、一番影響を受けるのが、函館地域のホテル業界ではないでしょうか。

前川 札幌圏に住んでいるお客様にとっては、函館が1時間で来られる旅行先となるということでもありません。ただ道内の旅行者も高齢者が多いので、新函館北



五稜郭タワー(株)
専務取締役
中野 晋 氏

斗駅に着いてから、観光スポットを周遊するバスなどの二次交通を充実させることが重要です。函館は、観光地として魅力があり、雪も少ないので、札幌から1時間で来られるとなれば、小樽より魅力があるのかもしれない。

中野 新幹線札幌延伸について、期待している部分が多く歓迎しています。これからインバウンドの方が、新千歳空港にたくさん入ってくると予想していますので、その方々が函館に来やすくなると思います。逆に新幹線延伸で心配なのは、今まで来ていた道内の修学旅行が、函館を通り越して、東京ディズニーランドに行ってしまうことです。全体的に見れば、函館から札幌が1時間になることは、メリットの方が大きいと思います。

函館は、観光地として、温泉、食、宿泊施設、歴史文化などが揃っていて、成熟していると思います。これからは、魅力に磨きをかけていくことが大切だと思います。私は、歴史と文化を紹介する「五稜郭タワー」の運営が仕事なので、そこをどう磨き上げていくかを考えていきたいと思っています。個人的には「食」が大事だと思っているので、「食」の分野でも、情報発信のお手伝いをしていきたいと思っています。

櫻井 札幌は2030年開業に向けて、今から駅周辺の街づくりに力を入れています。倶知安では、新幹線の駅前にホテルやオフィス、複合ビルを造って、札幌からの通勤圏にしようという計画が進められています。函館は、観光施設や食は充実していますが、あとは、それらを結ぶ交通網の充実です。特に新函館北斗駅周辺に人を集める方策を考えることが重要です。現在、木古内駅では、木古内町を中心に桧山管内を含めて、広域観光地づくりやPR活動に取り組んでいます。函館も道南圏、東北圏との連携を強めて、お客様に泊まっていただくメニュー作りを考えていかななくてはなりません。併せて、新函館駅周辺にいかにお客様に来ていただくかを考え、函館の魅力を高めていくことが、通過駅でなくなる一つの方策だと思うのです。

安田 最後に、函館にエールを送る意味で一言お願いいたします。

根子 函館は、ポテンシャルが高いのですが、住んでいると外へのアピールを忘れてしまいます。特にMICEは、非日常をどう提供するかということですから、ワーケーションも含めて、函館に来れば、普段と違う生活を体験できることを提案していくべきです。

前川 今、ニセコは、事実上の英語圏で、外国人が働きやすい環境になっていて、人も集まります。函館も英語圏にすれば、世界の国々から人も集まりやすくなると思います。戦略的の一つとして考えるのも面白いと感じました。

中野 道南の観光関連異業種で組織する「箱館会」があります。「箱館会」では、観光DXの取り組みを進めています。来月くらいには、道南を訪れる観光客の利便性を高めるために、マップ型の旅行共有アプリが完成し、実証実験をする予定です。本日、出席していません大学生のみなさんにも、是非アプリを使っていたいただき、感想と意見をお願いしたいと思っています。

櫻井 それぞれの事業者が自分のところだけで考えるのではなく、これまで以上に連携を図り、みなさんの観光振興のアイデアを積極的に提案して欲しいと思います。そのことによって、輝く函館観光になることを願っております。

安田 コロナの収束は、見えない状況ですが、コロナ禍で生じた変化をチャンスと捉えて、函館観光を復活させ、観光だけではなく、日本一住んでも良い町、「函館」になってほしいと思います。

パネリスト

櫻井 健治 氏
前函館山ロープウェイ(株) 代表取締役専務

中野 晋 氏
五稜郭タワー(株) 専務取締役

前川 勝美 氏
(株) アンビックス副会長

根子 俊彦 氏
(一社) さっぽろ北海道MICE振興協会専務理事

コーディネーター

安田 稔幸
北海道エアポート(株) 営業開発本部観光開発部担当部長